

声

今回の避難訓練(火災想定)では、南三陸消防署の方においでいただき、学校で立てた計画についての疑問点などを直に聞いていただきました。その場での質問にも丁寧に応じていただきました。ありがとうございます。参観していただいた感想の一部を以下に、ご紹介いたします。

- 「おはしも」を守り、訓練にまじめに取り組んでいた。
- 設備を使用した訓練は実践的であるので続けてほしい。
- 課題をもって訓練を行っていた。先生方の防火意識が高い。

以上のような感想の他に、「(防火扉による)出火区画の形成と避難の方法」や「屋内消火栓の使用と初期消火」など消防用設備等を活用した訓練を勧めていただきました。

『ひとつずついいね！で確認 火の用心』

令和元年度 防火標語



校庭へ避難，人員の確認



「おはしも」を守り避難



6年生が消火器使用の体験



消火器の使い方の模範実演

11月13日(水)3校時に火災想定定の避難訓練が行われました。訓練には、南三陸消防署の小山さん、横田さん、芳賀さんにお越しいただき、避難訓練の指導と少年消防クラブの活動として6年生の消火活動訓練の指導をしていただきました。訓練の講評では、児童が「おはしも」の約束を守り、訓練に真剣に取り組んでいることをお話しいただきました。消火活動訓練では、「消火器の噴射時間は？」「の問いに4年生児童が『15秒です。』と答えました。また、「消火器は何分噴射しますか？」には、「6年生児童が『3メートルです。』と答えました。すぐ、正答を出したことに消防署の方々も驚き、防災学習の成果が表れている場面として先生方も感心していました。消火訓練では6年生の「火事だあ！」の大きな声と素早い消火に低学年の児童から『消火が早い！』の声があがりました。6年生全児童が貴重な経験をしました。

貴重な経験となりました



いりりコミュニティ通信

第12号
発行元
入谷小CS推進
委員会編集部



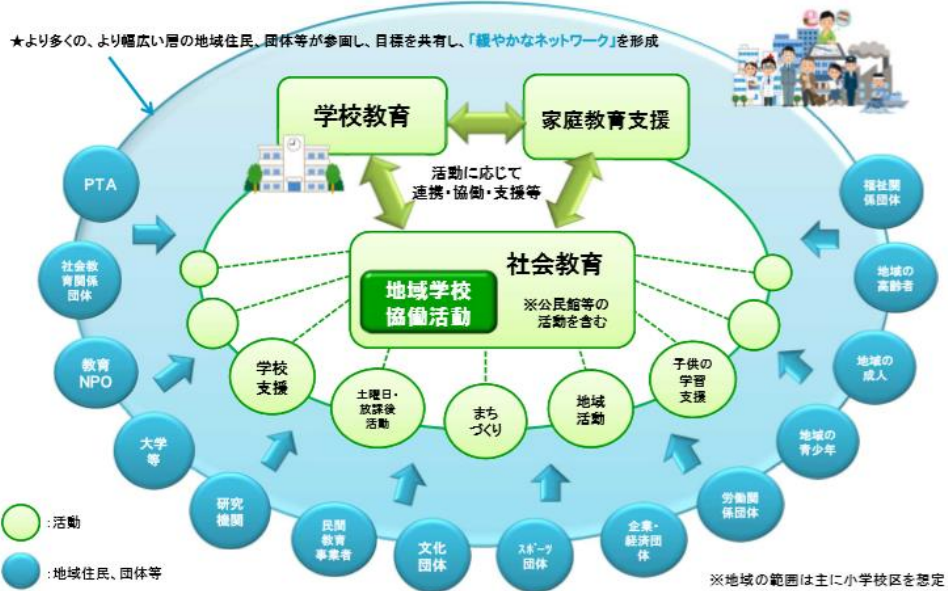
10月30日(水)8時30分に学校を出発して、阿部博之さんのりんご園へりんごの収穫に行きました。入谷地区も先日の台風19号の影響で農作物が被害を受けました。阿部さんによると「春の予定ではもっと(りんごが)収穫できた。」とお話ししてくれました。元気な1年生とりんごの収穫をして、笑顔になってくれたのがなによりです。

自然の恵みに感謝して

被害には遭いませんでしたが、自然の恵みを受けました。思いやりの心を育てたいです。

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み(活動概念図)

◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
◎ 従来の地域団体だけではなく、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。



今年度から入谷小学校では学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールが進められています。学校長から保護者・地域の皆さんに「学校運営の基本方針」が説明されました。現在、入谷小学校型の組織によって進められていますが、文部科学省が推奨する「学校」と「地域学校協働本部」が両輪となる組織には時間が必要とされます。上の図は『地域学校協働活動』の活動概念図です。

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律(地教法第47条の6)に基づいた仕組みです。

この仕組みを進めるにあたり、今回は『地域学校協働活動本部』について紹介いたしました。少しずつですがコミュニティ・スクールについて理解を深めていってほしいと思います。



ホームページ
へのQRコード

理解を深めよう！
コミュニティ・スクール